

雑感 『風立ちぬ』と計算尺

■ 遅まきながら、アニメ映画『風立ちぬ』を見た。平日の昼下がり、シニア料金で他に誰も観客がないという貸し切り状態の贅沢。

■ 堀越二郎が菜穂子と列車で出会い、その乗車中に関東大震災に遭う。菜穂子の連れの中中の骨折した脚を固定する添え木に、二郎が持っていた計算尺を使う。「ああっ」と思った。

映画では、航空機的设计に二郎が計算尺を使うシーンが随所に登場して、時代を彷彿とさせる。二郎と奈津子の睦まじいシーンでは、病床にある菜穂子の手を左手で握り、右手だけで計算尺を使い、「片手の計算尺選手権があつたら優勝だ」みたいな発言をする。

二郎が計算尺を使っている画像が欲しかったが、見つからなかった。次の画像はネット上の予告編で拾ったものだが、右下の茶色のベストの男が計算尺を使って仕事をしている。



■ 当時の理系の学生であれば、計算尺と常用対数表は常備すべき必需品だった。当時と書いたが、そういう時代はそんなに昔のことではない。私が大学生だった40年前だってそういう時代だったのだ。

記憶では、中学3年の教科書に計算尺が載っていて、授業で使ったような気がする。自分用が欲しくて、町の文具店で(中学生用の?)計算尺を買い、中学・大学とずっと使っていた(もっとも、理学部数学科では計算尺が使える計算はなかった)。



(私が持っているのと同じと思われる計算尺)

■ 電卓が庶民の手にはいるようになったのは昭和50年代で、私が最初買った電卓は昭和52年頃、現在の電卓と同機能(8桁、メモリー機能つき)で12,000円!だった記憶がある。その後、どんどん安価になっていき、今では「百均」で手に入る。

■ 数学IIの対数関数の授業の「常用対数」の項目では、中学校時代買った計算尺を持参し、「電卓という便利な道具が出回るまで、理系学生は乗除、累乗根などの計算をこの計算尺を使って計算していたのだ」という話をすることにしている。生徒に回してみせると、サッとスルーする生徒が大半だが、何名かは興味を示し、時間をかけて「操作」している。

授業に行く前に職員室で計算尺を取り出して思い出しながら操作していると、若い教員は「何ですか?それ」と、年配の方は「わあ〜、懐かしい」と反応する。

そういった中で、ある数学の教員が「僕、中学校時代、計算尺クラブに入っていたんですよ」とか「私、計算尺の全国大会に出たことがあるんですよ」などという、思わぬ話を拾う。

■ 私が今も持っている計算尺は「HEMMI」製で、ヘンミ計算尺株式会社のH.P.の中に、計算尺の歴史がまとめられていて(http://hemmi-inc.co.jp/slide_rule/history.html)、全日本中学校計算尺競技大会が開かれていたことも記されている。